

経済学部と四極会の意見交換会



日時：令和元年9月6日(金)18:30

場所：大分センチュリーホテル

年に2回開催している経済学部と四極会との本年度第1回意見交換会が、経済学部から大崎美泉学部長ほか13名の教職員のみなさん、四極会から石川公一会長のほか13名の役員、それに事務局職員が出席して開催されました。

石川会長挨拶

初めに石川会長から、当日午前中に行われた黒土始先輩への大分大学名誉博士称号授与についての報告がありました。北野正剛学長が第一交通産業の本社を訪ねて授与されました。

日本一のタクシー会社、第一交通産業を一代で創



り上げ、全国で公共交通の新機軸を展開される同氏の偉業は、経済学部の社会イノベーション学科が育成を目指す起業家の先駆けです。また、大分県や福岡県に多額の災害支援金を拠出されたほか、大分大学や四極会にも寄付をされるなどの社会貢献に対する顕彰でもあります。大分大学博士称号はノーベル賞受賞者2名に次ぐ3人目ということで、四極会としても大変名誉なことです。

石川会長からは、経済学部100周年記念の新聞広告を9月30日に掲載する準備を進めていることについても報告されました。

大崎経済学部長挨拶

経済学部の主要な事業について説明され、9月26日から6回にわたって実施される公開講座「変貌する国際政治・経済情勢を読み解く」への参加要請もされました。



経済学部の現状説明

経済学部の4名の先生方から説明がありました。

・教務委員長 高見博之教授

前期に15回にわたり四極会会員が講師となって実施された四極会寄付講義「会社研究」についてのお礼。来年度、社会イノベーション学科が初めての卒業生を出すこと、今年度後期には大分県庁やJR大分シティ等との連携講義を予定している等の説明がありました。



・入試委員長 小笠原悟教授

入試の状況について説明されました。



・学生生活委員長 松隈久昭教授

地域に出て行き、学生の企画力を養うとともに地域振興にも

貢献することを目指した8つのプロジェクトを進めている「大分大学生きいきプロジェクト2019」等について説明されました。

・就職委員長代理 久木元美琴准教授

好調な就職状況について説明されました。平成30年度卒業生の就職先は、業種別では金融が21.8%、公務員16.6%、卸売小売業15.0%。規模別では大企業66.8%。大分県内33.6%とあわせて全体の60%が九州内であることなど。



100周年事業進捗状況

野々下俊昭実行委員長から報告。記念募金は8月末時点で6,523万円に達しているが、一部の大口募金を除くとまだまだ少ないこと。2022年の記念式典に合わせて計画している記念ツアーには記念講堂の整備や旧校舎正門のレプリカ建設を間に合わせてほしいこと等。



また、新聞広告掲載のために役員が手分けして県内主要企業約50社を回って得た企業からの意見についても報告されました。企業は経済学部を期待しているけれども、顔が見えないと感じており、

四極会も経済学部と一緒に地域における経済学部の存在感を高める努力をしたい。

精力的に企業回りをされた三浦洋一会長代行も、県内企業と経

経済学部の結びつきを強める必要性を強調されました。

相良浩名誉会長からは、各地の支部を回った経験から、四極会の結束は母校に対する愛校心と経済学部を卒業したという誇りが支えになっていること、卒業生は現在の経済学部の活動・状況に注目していること等の発言がありました。

その他

会議に初めて出席された経済学部の久木元美琴准教授、吉野勉事務長の自己紹介がありました。

終了後の会食では先生方とOBの垣根を越えて懇親が深められました。

会議参加者

(経済学部)

学部長：大崎美泉教授、副学長：下田憲雄教授、評議員：市原宏一教授、副学部長：高見博之教授、石井まこと教授、入試委員長：小笠原悟教授、学生生活委員長：松隈久昭教授、就職委員会：久木元美琴准教授、OB教員：渡邊博子教授、村山悠准教授、事務長：吉野勉、総務係長：蜷川かおる、学務係長：久保克智

(四極会)

会長：石川公一、名誉会長：相良浩、相談役：大堀敬直、会長代行：三浦洋一、副会長：待井弘道、理事：野々下俊昭、帆足三郎、玉井鉄之、高野浩子、常務理事兼事務局長：柴田宏二、監事：板橋紘平、木本秀光、事務局：高橋秀武、大園広子